

## 2024年基本テーマ 農的暮らし。

- 1, 毎日を豊にする農。 心と体。
- 2, 暮らしの中に自然が有る。 季節の移り替わり、植物、広い空、鳥の鳴き声、虫の移り替わり
- 3, 自然に触れ合う。 自然と人間の寄り添い、命。
- 4, 日常でのストレス。
- 5, 土に触れ合う事、触れる機会。自然に向き合う事によるストレスの発散

全てを通して『収穫した野菜の食＝食べて行く＝食べ方』  
『美味しさ・喜び』

“土の匂い”

“風のぬくもり”

“収穫の喜び”

“生きもののざわつき”

## 非日常の場所

●田舎生活の一例

- ・野菜が出来たらおすそ分け（勝手に置いてある“ゴン狐が来た”）
  - ・煮物作りすぎておすそ分け
  - ・地域的な結びつけ（面倒くさいと感じる時も）
- ・見守る（田舎は見ている、他人が気になる、コレも面倒くさい）  
**それが田舎のコミュニティだが、イザと言う時は頼りになる!!**

●地方出身者の子供の頃（最低限で野菜の自給を行っていた家庭）

- ・子供の頃の当たり前で有った畑で作った作物が普通に食卓に並んでいた頃、よく『畑から野菜を採って来て』と言われ採りに行った思い出。
- ・独立して田舎から離れるとお金で買う生活に、農が離れ自然が離れて行った。

**現代生活からのどことない懐かしさ、郷愁**

**そこに『農で養う農的暮らし』がある。**

## もう一つのテーマ **パーマカルチャー**

パーマカルチャーとは？

暮らしを見つめ森で作られて行く持続可能な社会システム。

人と自然が共存する社会をつくるための手法で。パーマネント（永続性）、農業（アグリ）、文化（カルチャー）を組み合わせた造語、永続可能な循環型の農業をもとに、人と自然がともに豊になるように関係性を築いていくための暮らしをデザインしていく事で、1970年代にオーストラリアで構築された『持続可能な暮らし方』『自然に融合した暮らし・暮らしを工夫する』事にある。

基本的な3つの要素は、

- 自然のシステムを良く観察して行くこと。→森は何もしないでも毎年、植物が育って行く。
- 伝統的な生活の知恵を学ぶこと。→もともとある日本の伝統文化。
- 現代の技術的な知識（適合技術）を融合させること。→自然農、自然栽培（坂本農法、ピース野菜）

『パーマカルチャー』という横文字を使わなくても  
日本にはもともと伝統的な文化の全てがある。



**それが『農的暮らし』  
伝統的な文化を意識して行く事ができる。**

坂本さんが今日に至る前に長野県安曇野市にある、ゲストハウスシャंकティクティ臼井健二さんを訪れ学んだ内容でもあり、袖山も訪問して体験しています。

農業コミュニティを通して。  
好きな事を見つけて追及して行く。

そこから『**楽しい**』を見つける。  
好きな事で集まるコミュニティへ。

- ・自然が好き
- ・美味しい安全な野菜を作りたい。
- ・安心な野菜確保しながら安心な生活の繋がりをもちたい。
- ・農業が好き。
- ・農を学びたい。
- ・同じ仲間との繋がり、安心感。

皆で一緒にやる

『居場所作り・居場所見つけ』その場所を提供すること  
人と人の繋がり場所・農業コミュニティを通じた『共感・仲間』  
1人より2人、2人より3人・皆でやれば『**楽しい**』

大切な事は目の前の移り替わり、人と人、人と作物の関係性

農は『作る』のではなく、『育てる』のである、すなわち『土神を通して人と作物は交流・循環している』（江戸農法農業全書）

作物を作ると言うのは『育てる・育む事』人と人は対等の立場であり、土神は自然、目の前の自然を通して人と作物は交流している。

●野菜は自然に出てこない。種を蒔く事から始まる←Give（ギブ）から始まる。

野菜作りのプロセスからGive『与える、贈る、提供する』とは？

土を作る、種を蒔く、水を与え育てる（育苗）、定植、草刈、支柱立て、虫よけなどの繰り返し。

**育てる事は子供の成育と同じ、Give,Give,Give,の繰り返しで、時期が来ると野菜ができ、収穫できる。**

**そこに人がいて、人が作り育てて行く・全て自然の中の移り替わりと目の前にあること。**